

## コラム 2010年刊地震を踏まえた刊国の橋梁耐震基準改定への協力計画

2010年2月27日に発生した刊地震により、落橋を始めとする甚大な橋梁被害が生じました（写真-1）。刊共和国公共事業省（Ministry of Public Works：MOP）では、こうした被害経験を踏まえ、現在橋梁の耐震基準の改定作業を進めています。このような耐震基準の改定を支援するために JICA の協力プロジェクトが立ち上がることになり、橋梁の耐震技術に関する研究開発を進めるとともに、道路橋示方書などの橋梁の耐震基準の策定メンバーとしてその内容にも精通する CAESAR が協力要請を受け、刊共和国への技術支援を開始することになりました。

ところで、2010年の刊地震の直後には（公社）土木学会から現地調査団が派遣されました。この調査団には、道路・橋梁分野の専門家として参加要請を受け CAESAR から参加しました。現地では、MOP から派遣されたエンジニアと共同で橋梁被害の調査を行うとともに、日本における被害経験や耐震基準等での取扱い、震災復旧事例などに関する資料を提供するとともに、多くの議論を行いました。MOP は、地震直後に被災橋梁の復旧のための暫定復旧基準を策定しましたが、この暫定復旧基準の中には、現地調査で議論した日本の耐震基準の一部が引用されるなど、技術貢献の1つの良い事例となったところです。今回の JICA プロジェクトにおいては、当時の調査団メンバーで実際の被害情報や暫定復旧基準にも詳しい2名の専門家が在籍することもあり、CAESAR が協力要請に対応することになったものです。

本 JICA プロジェクトの第1回の協力調整会議は、平成26年9月24日～26日に開催された「橋梁技術に関する第1回国際会議」に合わせ、首都カンチャゴ市で開催されました。暫定復旧基準の策定時に課題として残された事項の中から今回検討すべき課題を議論するとともに、今後約2年間の計画スケジュールが協議され、この計画に沿って進められることになりました。刊では、Chacao 橋という4径間連続長大吊橋（橋長2,750m）のプロジェクトが進行中で、橋梁技術に対する関心が非常に高くなっています。このようなことから、この国際会議には、MOP の Alberto Undurraga 大臣も参加され、開会式で挨拶されました。また、2010年の刊地震に対する技術支援に対して、MOP の Mario Fernandes 道路局長が謝意を表明されました（写真-2）。



写真-1 2010年刊地震による高速道路の落橋被害（刊共和国公共事業省MOP提供）



写真-2 公共事業省 Undurraga 大臣(中央)及び同省 Fernandes 道路局長(左)から謝意を受ける CAESAR 運上耐震研究監(右)(土木学会現地調査団に参加)